



いつ、どこで、起こるか分からない

土砂災害から身を守る

この季節、台風や集中豪雨が発生しやすく、土砂災害などが懸念されます。
万が一の場合でもしっかりと対応できるよう、日頃からの土砂災害への備えや意識が大切です。

【土砂災害ってなに？】 土砂が大きく移動することで、住人や人命に危険を及ぼす自然災害。
『土石流』、『がけ崩れ』、『地すべり』の3種類に分類され、ほとんどが、長雨や集中豪雨で起こります。

土石流

山や谷、川底にある土砂・石が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されること



がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちること



地すべり

斜面の一部または全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面の下方向に移動すること



このような前兆がおこったら、急いで避難！

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川がにごり、流木が流れる
- がけからの水がにごる
- がけにひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がする
- 地面にひび割れができる
- 井戸や沢の水がにごる
- がけや斜面から水がふき出す

【身を守るために備えること】

雨に注意していますか？

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降水量になったら十分注意が必要です。



避難場所は決まっていますか？

家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。避難場所は、「亀山市防災マップ」でご確認ください。



逃げ方を知っていますか？

土石流はスピードが速いため、流れを背にしては追いつかれます。土砂の流れに対して直角に逃げるようにしましょう。



非常袋を常備していますか？

食料、飲料水、懐中電灯、ラジオ、貴重品、衣料品などを入れた非常持ち出し袋を常備しておきましょう。



土砂災害警戒情報とは？

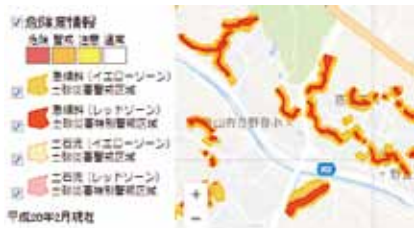
A 大雨警報発表中に、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、市町が避難勧告などの災害応急対応を適切に行えるよう、また住民の自主避難の判断の参考となるよう、県と気象庁が共同で発表しています。



市内の雨量・危険度情報を詳しく知りたいときは？

A 亀山市土砂災害情報相互通報システムをご覧ください。携帯電話でもご覧いただけます。また、電話やファクスで情報を受け取れます。

URL <http://www.dosha-kameyama.jp/dsyhome.htm> (「亀山市土砂災害情報相互通報システム」で検索)



地域で防災などについて、学習したいときは？

A 行政出前講座をご利用ください。市の職員が地域などにお伺いし、「災害への備えは?」、「防災マップを作ろう!」などのテーマに基づき、お話しします。詳しくは、危機管理室へお問い合わせください。



【災害について学び、そして備える】

平成27年度「土砂災害防止に関する作文(小学生の部)」で、国土交通事務次官賞(優秀賞)を受賞された草川清香さん(亀山東小学校5年[受賞時は4年])の作文をご紹介します。

「ドドー」と、

まるで海のような波が、太い木や丸太等を見たこともない速さで次々と上流からおし流していました。激しい雨の音で、本当に心がドキドキする光景に出会いました。

それは、7月16日台風11号の大雨けい報が出ていた時のことでした。私は、車で登校する途中でしたが、そんな時に見たのが、鈴鹿川のおどろきの姿でした。なんと、堤防の上の方まで、どろ水がせまっていたのです。大きな川の左右一ぱいまでの急流で堤防には、どろ水の波が当たって、まるで海のような、見たことのない波でした。

鈴鹿川は家から1kmくらいの場所にあり、広くて大きい川ですが、ふだんは水も少なく、きれいな川で夏はずしそうです。その川が今、私の目の前で、堤防のほんの少しまで増水しています。「自然のこわさ」にとてもびっくりしました。

昨年の台風の時、三重県に特別けい報が出ました。その時、家にも雨や風がまどなどに当たり、「ギシギシ、ガタガタ」という音が聞こえて、一ぱん中とでもこわく、なかなか、ねむれません。その夜中には、大雨のため堤防近くや多くの場所にひなん勧告が出て、私の小学校もひなん所になりました。しん水した家も多くあったと、よく朝ニュースで知りました。

私は、学校まで2.4kmもの長い通学路をいつも歩いているので、『防災みえ』や『気象台のホームページ』もよく見ます。登下校時の急な天気の変化に備えるためです。このホームページは、わたしたちにも大変見やすくなっているので、ハザードマップも関心を持って見えています。それを見ると私の家は、土砂災害のき険が低い事が分かりました。しかし、私の家から遠くには急じゃ面や多くの里山に「がけ」があり、ハザードマップでは、き険な場所があります。注意が必要だと思えます。また、通学路の「がけの道」と家族でよんでいる所でき険な場所を発見しました。以前の大雨で坂道のアスファルトの下の土砂が流れて、何か所もアスファルトが大きくくずれていたのです。そこは工事して直されていました。ハザードマップをもう一度、ていねいに見ました。この「がけの道」は、き険の色がぬらわいて、本当に身近に土砂災害の可能性のある事を学びました。亀山市にも土砂災害の可能性のある所が多くある事が分かり、私にとって新しい勉強になりました。

昨年の広島ごう雨災害では、70人以上の方が亡くなり、「自然のきびしさ」は毎年どこかで発生し、ニュースになっています。ですから、「絶対安心」は私はないと思えます。特別けい報の時も「経験した事のない大雨」と言う表現がありました。両親、祖父母も体験してないこととなります。毎日の天気予報も必ずそのとおりではなく、想定外の大雨、土砂災害もある事が当たり前くらいに考える必要があると思えます。

今、鈴鹿川は新しい橋の工事が進んでいます。私は父と見に行ったのですが、堤防には大きなブロックが積まれ、上流のえん堤も新しくなっていました。川に積もった砂や土を運び出す工事も行われていました。なぜ土を運び出しているかというと、川の水があふれないようにするためだそうです。県庁の河川課の方に教わり、とても勉強になりました。

土砂災害は「身近な災害」なのだと、私は改めて思いました。台風でのき険な川の様子、鈴鹿川の工事の様子やえん堤を見学して思ったのです。大雨の予報を知ったら、ひなん等、今できる事について家族と話し合い、自分にできる準備は自分でしようと思いました。

これからも、土砂災害に備えるために自分の周りの様子を見直していきたいと思えます。